

# 市蝶

ジャコウアゲハ (1)

*Atrophaneura alcinous*

下の写真は、左が雌の翅で右が雄の翅を持つ珍しいタイプの写真です。

このようなタイプを雌雄型よんでいます。

モザイク状や1枚の翅だけに別の性が現れたりもします。

## なぜ、姫路市の市蝶になったのでしょうか

平成元年に姫路市は、市制百年を迎え、「市蝶」にジャコウアゲハを制定しました。

それまでには昭和41年に「市花」として『さぎ草』を、昭和47年には「市木」として『カシの木』を制定しています。

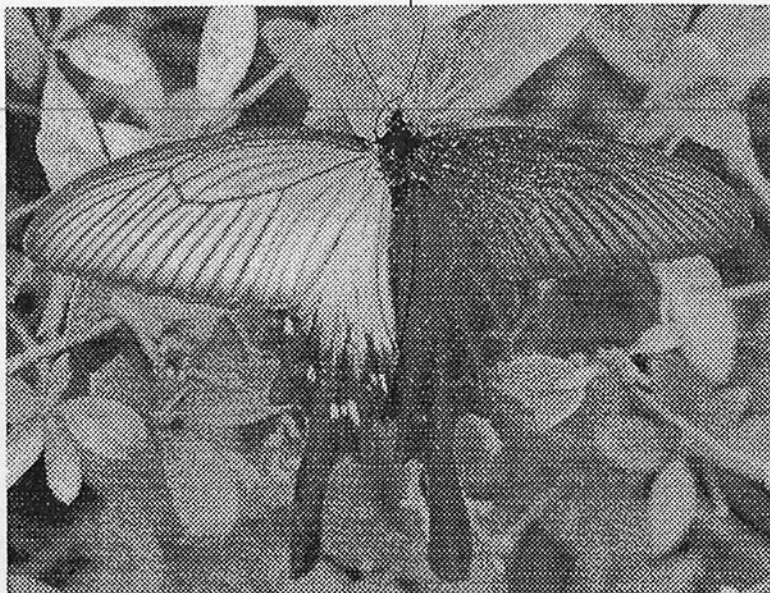
ジャコウアゲハが「市蝶」に制定されたのは次のような理由からです。

### その1 瓦紋「揚羽蝶」

姫路市のシンボル姫路城には、築城主池田輝政の家紋「揚羽蝶」の瓦紋が、何千と用いられています。

また、日夜市民に愛唱されている「白鷺の城」(村田英雄・歌唱)にも「あげ羽の蝶の影を追う」の歌詞があります。

姫路城の揚羽紋瓦については、14号で。



『昆虫と自然』12月号より

### その2 お菊の化身は蝶のさなぎ

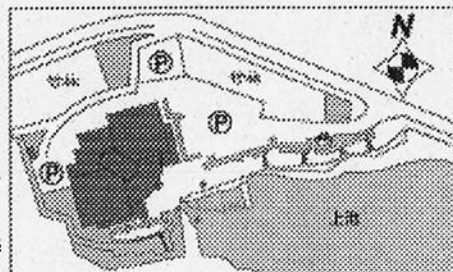
「播州皿屋敷」の悲劇のヒロインお菊さん。その化身といわれている「お菊虫」は、ジャコウアゲハのさなぎなのです。

志賀直哉の代表作『暗夜行路』の中に、夕刻姫路駅についての主人公が、宿で明珍火箸と「お菊虫」を買ったという記述があります。

お菊虫の話は、12号で。

### その3 農作物を食害しない

アゲハチョウの仲間でもナミアゲハやキアゲハ、クロアゲハなどの幼虫は、ミカン・サンショウ・ニンジンなどの農作物を食害します。しかし、ジャコウアゲハの幼虫は、ウマノズクサを食べるので決して農作物に害を及ぼすことはありません。



# 市蝶

ジャコウアゲハ (2)

*Atrophaneura alcinous*



(写真3)お菊虫

これは、「お菊虫」と呼ばれているジャコウアゲハのさなぎです。

## 志賀直哉の代表作

### 「暗夜行路」の中にも

姫路市史第14巻には、(作中の主人公の謙作のことであるが、同時に直哉本人と思っても、まず差し支えないのではなかろうか)とかかれている。

志賀直哉がお菊虫を買っていたのである。

廣場の入口から引き返さした。それから、彼はお菊神社といふのに連れて行かれた。もう夜だった。彼は歩いて暗い境内を只一ト廻りして、其處を出た。お菊蟲といふ、お菊の戀靈の蟲になつたものが、毎春秋の末になると境内の木の枝に下るといふやうな話を車夫がした。  
明珍の火箸は宿で賣ると聞いて、彼は其儘俵を宿の方へ引き返さした。彼は宿屋で何本かの火箸と、お菊蟲とを買つた。その蟲に就いては口紅をつけたお菊が後手に縛られて、釣下げられた所だと番頭が説明した。

『暗夜行路』より

## お菊の化身？

今から約450年、青山鉄山は、町坪弾四郎と相談して姫路城を乗っ取ろうとしました。

城主は、その計画に気づき、お菊を鉄山の家に女中として住み込ませ、様子をさぐらせていました。

このことを弾四郎に気づかれ、家宝の皿の1枚をかくしてお菊のせいになりました。

皿を割ったとぬれぎぬを着せられたお菊は、姫路城内の松に吊されて斬り殺され、井戸(写真1)の中へ投げ捨てられました。

城主は、お菊の死をいたんで城内に手厚く葬りました。

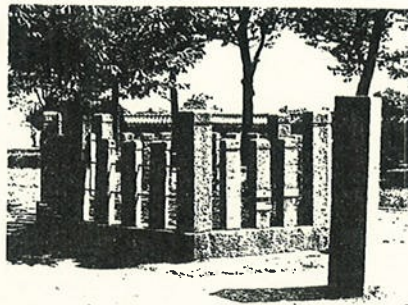
それから300年近くたって、城下にお菊さんが後ろ手に縛られたような不気味な虫(写真3)が発生しました。

『姫路一お城物語』

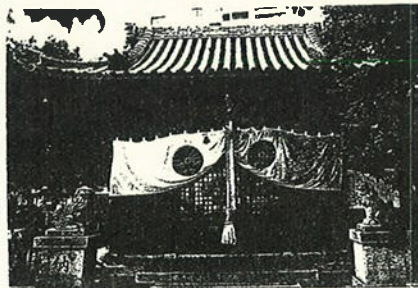
姫路市教育委員会著より

お菊さんの墓は、姫路城内から、十二所神社境内の「お菊神社」(写真2)に移されました。そこではお菊虫を三方に乗せて保存していたといわれています。

このようなことがあって、戦前、お菊神社や姫路城の天守閣の最上層などでも売られていたそうです。



(写真1)お菊井戸



(写真2)お菊神社

自然を科学する





# 市蝶

ジャコウアゲハ (3)

*Atrophaneura alcinous*

## 幼虫の食草は

ウマノスズクサ

*Aristolochia debilis*

果実が馬の首につける鈴に似ているところから馬の鈴草(うまのすずくさ)の名があります。

原野や河の堤防などに生える多年草です。

根…根は長く地中にのび、春にところどころから芽を出します。

茎…細い針金状で緑色無毛です。初めは、直立しますが、大きくなると他のものにかからまって成長します。

葉…有柄無毛で互性します。葉は、長さ5cmぐらいの細長いハート形です。

花…夏に葉の付け根から細い柄を出し、その先の緑紫色の花が1個横を向いて咲きます。花びらのようながくはラッパ状の筒形で長さ3cmぐらいです。下部は、球状になっています。

## どこで見られるの

ジャコウアゲハは、掛保川や市川水系の食草が生えている何カ所かで見られます。

姫路市自然観察の森では、市蝶・ジャコウアゲハをまもり、繁殖を助けるため、ウマノスズクサを移植して、一年を通してみられるよう生育環境づくりに取り組んでいます。

一度、訪ねてください。

## ジャコウアゲハの成長過程

4月から9月にかけて、年3回発生します。幼虫は、他のアゲハチョウの仲間と異なった体をしています。

卵…産卵から約10日で孵化する。

幼虫…4回脱皮し、約20日で蛹になる。

蛹…約2週間で成虫になる。

手で捕まえると一種の臭いがあるので、ジャコウの名があります。

成虫は、黒っぽい色で、後翅に長い突起があります。緩やかに飛んでアザミなどで吸蜜します。

ジャコウアゲハの幼虫は、ウマノスズクサの毒を体に蓄えるため、鳥が食べません



幼虫  
「蝶・蛾」保育社より



果実



茎

花

# 市蝶

ジャコウアゲハ (4)

*Atrophaneura alcinous*

## 姫路城には何千もの揚羽蝶の瓦紋が！！

「播磨人の美的感覚はすごい。姫路城の屋根瓦で、桐の樹海の上を何千、何万もの揚羽蝶が乱舞しているところ表しとんのや。その向こうで、鯨が跳ねとんのや。瀬戸内海の鯨を見て作ったと思うで」

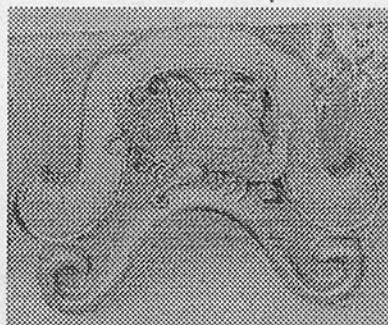
(故 選定技術保持者 小林平一氏 談)

「おまはん、播磨人の美的感覚はすごい。姫路城の屋根瓦で、桐の樹海の上を何千、何万物揚羽蝶が乱舞しているところを表しとんのや。その向こうで鯨が跳ねとんのや。きっと瀬戸内海の鯨を見てつくったと思うで」

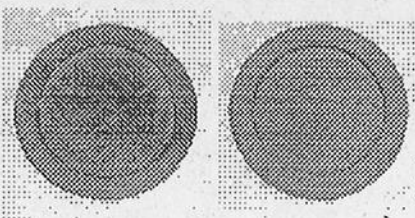
生前、姫路城の前をとおる度によくはなされていた。また、

「あれは姫路城やない。白鷺城や。城を造るときに播磨一円、いやそれ以上から人夫を集めたんや。姫路の人間だけで造ったと違うから、あれは、白鷺城や」とも。これは、匠のこだわりかも。

それでは姫路城の揚羽紋を見てみましょう。



姫路城小天守閣 棟端飾瓦  
当初蝶紋 複製



蝶紋(左) 復原(右)  
軒先役瓦 姫路城大天守閣



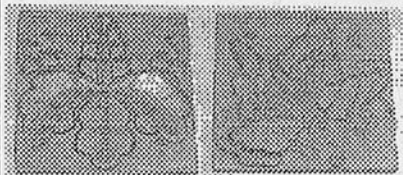
## 揚羽は、池田輝政の家紋

1600年(慶長5年)入城した池田輝政は、市街地を城下に取り入れ、現在の城郭をほぼ完成させた。輝政から三代目の光政が年少のため鳥取へ国替えとなる。のち岡山へ。

(白鳥パーキング説明版より)



棟端飾瓦 岡山城月見櫓  
復原



幻の瓦

姫路城の壁の中から桐紋と揚羽紋の瓦が見つかり使用目的がわからないところから「幻の瓦」と呼ばれている。



蝶紋 復原  
軒先役瓦 姫路城大天守閣

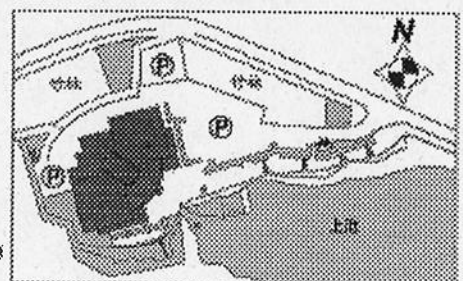


00000

姫路科学館

Himeji City Science Museum

079-2222 姫路赤青山1470-15  
Tel. 0792-67-0001, Fax. 0792-67-3052  
<http://www.city.himeji.hyogo.jp/atom>

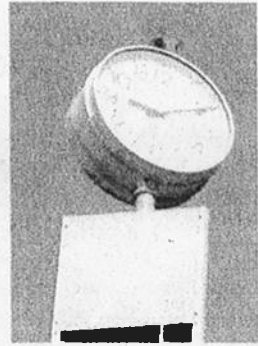




# 市蝶

ジャコウアゲハ (5)

*Atrophaneura alcinous*



白鳥パーキング

## 市蝶ジャコウアゲハがこんなところに



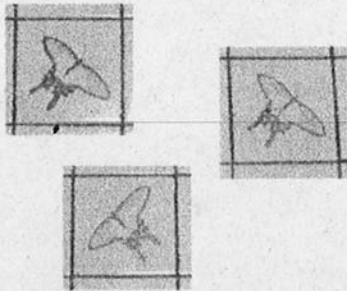
大手門前の揚羽像



船場川沿い



白鳥パーキング



白鳥パーキングトイレの  
タイル



余部の揖保川沿い

白鳥パーキングタイル



姫路科学館前タイル



西二階町溝蓋

